

令和5年度 第1回学校運営協議会議事録

- 1 日時 令和5年5月18日（木）午前9時30分から11時30分まで
- 2 場所 静岡南部特別支援学校 3階 会議室
- 3 学校運営協議会委員
 - (1) 学校運営協議会委員
 - ・地域住民 ・静岡大学教授 ・静岡市社会福祉協議会センター長
 - ・NPO 法人ひまわり 副理事長
 - ・静岡済生会療育センター令和 療育支援課 ・本校 PTA 会長
 - *欠席1名
 - (2) 校内教職員本校職員
 - ・校長 ・教頭 ・事務長 ・部主事 ・訪問主任 ・教務主任
- 4 校長挨拶
 - (1) 学校運営協議会制度（コミュニティスクール）趣旨説明
 - ・地域住民・関係機関から委員として参加いただいている。
 - ・学校運営協議会の主な機能について説明した。
学校運営の基本方針の承認・学校運営について意見を述べる、職員の任用に関して教育委員会の規則に定める事項について意見を述べるができる（同性介助・年齢層・教科指導への対応等）。
 - ・学校運営協議会制度の仕組みとねらいについて説明にした。
 - ・ここ2、3年、新型コロナウイルス感染症の影響で地域に出にくい状況が続いたが、これからまた地域に出たい。
 - (2) 学校運営協議会委員と地域コーディネーターの任命
- 5 学校・学部等の紹介
 - (1) 学校紹介
 - ・校章 公募をして決めた 保護者のアイデアだったとのこと。
 - ・静岡市内には肢体不自由特別支援学校が二校ある。
本校はセンター令和の入所生と静岡市に在住の在宅訪問教育を対象ということを基本としている
 - ・静岡県内の特別支援学校在籍児童生徒数について、特に知的障害特別支援学校の高等部で人数増加が著しい。静岡視覚特別支援学校の敷地に知的障

害特別支援学校高等部の校舎を併設する計画となっている。工事に伴い、静岡視覚特別支援学校が本校に仮移転してくる。二学期からは共同生活が始まる。

- ・本校での教育と訪問教育の教育課程について説明した。
- ・医療の進歩・インクルーシブ教育の推進により、本校の児童生徒数の減少している。
- ・学校と保護者のつながり
NANBU スポーツフェス、NANBU ムービーフェス等、行事への参観と参加
- ・学校間交流（西豊田小学校、豊田中学校、静岡視覚特別支援学校）
- ・地域にある近隣の施設で作品展
- ・東京パラリンピック金メダリスト 杉村英孝選手について
児童生徒は日頃からボッチャに親しんでいる。

(2) 小学部の紹介

- ・教科等合わせた指導・各教科・野菜の栽培と収穫
- ・ロータリークラブとの交流
- ・学部遠足（動物園に行こう）
- ・校外学習（ふじのくに地球環境史ミュージアム）
- ・ALT との活動・交通安全教室・訪問教育とのつながり「ふれあいタイム」

(3) 中学部の紹介

- ・音楽・体育・豊田中学校との交流・ALT・校外学習・修学旅行
- ・2組（知的代替の教育課程）の学習の様子
教科等合わせた指導（日常生活の指導・生活単元学習・作業学習）
各教科・交流籍交流
- ・3組（自立活動を主とした教育課程）の学習の様子
教科等合わせた指導（日常生活の指導・生活単元学習・自立活動）
各教科

(4) 訪問教育学習の様子

- 各教科等の学習の様子
- 五感を使った活動・季節を意識した活動・スイッチの活用
- ICT の活用をしたつながり（訪問教育内・本校の児童生徒と）
- スクーリング（芋ほり、行事等）

6 学校経営計画について ※ホームページを参照

本校の学校経営計画についてグランドデザイン(案)を活用しながら説明した。

学校経営計画について、学校運営協議会の委員に承諾いただいた。

7 授業参観感想、学校運営に関する主な意見等

- ・子どもの数が減っている。その分教師が丁寧に関わることができる良さがあると感じた。一人一人が自己肯定感を身に付けた上で集団の学習に取り組めると期待している。
- ・オンラインを活用しての交流も有効な集団としての在り方である。
- ・中央特別支援学校との交流も進路指導の一環として有効だろう。進路指導は小学1年から始まる。卒業後の生活に向けて、道筋を示してあげると保護者も安心すると思う。
- ・静岡視覚特別支援学校が仮移転することにより、視覚障害児と肢体不自由児の感覚的・言語的な理解が深まることが期待できる。
- ・特別支援教育はかつてないほど求められることが多い。発達障害に関連した不登校が増えていることについて、特別支援教育のニーズが高い。静岡南部特別支援学校もセンター的機能を発揮してほしい。
- ・学校教育目標「自ら」の捉え方について「一人で、自分勝手に」等の意味ではない。「自ら学ぶ」姿を引き出すために専門性を発揮してほしい。
- ・療育センターの入所者が増えていない。在宅でのサービスを利用し、家庭・地域で生活していく方が増えている。
- ・入所している児童生徒は地域との交流が少ない。子どもたちと同年代との交流する機会として、学校間交流は続けてほしい
- ・本校の入学の基準「療育センターの入所者」を緩和すれば児童生徒数を増やせるのではないか。
- ・ランドデザインが分かりやすい。イメージを広めてほしい。
- ・授業の様子を見て、以前よりも障害の程度が重度になっていると感じた。
- ・勤務している施設では、障害のある人が障害のある人の話を聞くぴあカウンセリングというものに取り組んでいる。また、重度訪問介護ヘルパー派遣事務所がある。同じ障害がある人同士で関わりがもてると良いと考えている。